

【主な質疑応答】2024年12月期 第3四半期決算発表説明会

【全社】

- Q. 第4四半期（10-12月）の利益前提が低い理由は？
- A. 第4四半期（10-12月）に日本事業が減益想定としている要因は、広告費を含めたマーケティング投資を引き続きコアブランド中心に実施することが主因。
足元状況を鑑みると、日本事業は上振れの期待感を持っており、予想超過を目指していく。
- Q. ROE目標やキャッシュフローの説明含め、25年年初に中期経営計画修正を行う可能性は？
- A. キャッシュフロー及びROEは、重要な経営指標と理解しており、開示についても引き続き検討していく。

【日本】

- Q. 10月実施の国内価格改定について、数量・価格の浸透度合いは？
価格改定効果額想定に変化は？
- A. 今回4回目の価格改定であり、数量影響を見込んでいたが、好天の後押しもあり、10月単月の販売数量はほぼ横ばい、会社計画以上の着地。直近、気温も下がっている中、11-12月の数量影響予測は困難だが、10月実施の価格改定は予定通り進捗していると考えている。
- Q. 10月実施の価格改定をふまえ、価格改定効果額想定に変化は？
- A. 第3四半期までの利益効果は、おおよそ50億円程度で計画通り。10月の価格改定による利益効果を含めると、今年は90億円程度となる見通し。
- Q. 今期および来期の原材料高・為替含めたコストアップ影響額見通しは？
- A. 今期のコストアップ影響は年間△120億円程度の影響想定に対し、△90億円程度で収まる見通しであり、価格改定効果とコストアップ影響が相殺される予定。
来期の詳細コメントは差し控えたいが、足元でコーヒー・オレンジの価格は大きく高騰、さらに物流費・人件費上昇の影響も見込まれ、コストアップ影響は価格改定効果以上の額となる見通し。

【海外】

Q. APAC の第 3 四半期（7-9 月）既存事業ベース営業利益は、6 億円の増益。各国の寄与はそれぞれのどの程度？

A. ベトナムは、第 3 四半期（7-9 月）に不安定な天候の影響を受けたが、一過性の影響。タイは飲料・健康食品ともに引き続き堅調に推移、特に健康食品はマーケティング活動強化によりコンディションが大きく改善し、来年も引き続き寄与する予定。一方、オセアニアは、エナジードリンクの競争環境激化が懸念材料のひとつ。主力製品である V の状況を注視し、引き続き活動強化していく。

Q. 欧州の第 3 四半期（7-9 月）営業利益は、為替中立で 49 億円と大きく増益。主要三か国の状況は？

A. 製品供給体制回復に伴う、英国の営業利益改善が大きく貢献。フランスとスペインは、長引くインフレと厳しい消費環境、さらに不安定な天候の影響を受け、売上収益成長は厳しかったものの、コストマネジメントにより増益。